

公益財団法人朝日新聞文化財団2025年度事業計画

(はじめに)

2024年通年の実質GDP成長率は0.1%増と、辛うじて4年連続プラス成長を維持した。けん引役の自動車生産の停滞、エネルギー資源高や円安に起因する物価高等から個人消費の回復はなお力強さを欠いているのが現状だ。

ただ、消費者物価指数は前年比2%台の上昇率を維持するなど、デフレ経済からの脱却はおおむね実現しつつある。日本銀行は24年3月にマイナス金利政策を終了し、金融政策の正常化を進めている。日経平均株価は史上最高値を四半世紀ぶりに更新し、7月には42,000円台まで上昇。地価や民間企業の賃上げ率もバブル期以来の伸びを記録した。

2025年の世界経済は、米トランプ政権が打ち出した極めて保護主義的な経済政策や、ウクライナ問題、中東情勢、中国経済の動向など下振れ要素も少なくない。ただ、我が国経済の基調としては、個人消費の回復などで所得から支出への前向きの循環メカニズムが徐々に強まり、成長軌道を維持することが期待される。

金融政策は正常化の歩みを進めつつも、緩和的な基調は当面維持するとみられる。上場企業に対しては、東京証券取引所が「資本コストや株価を意識した経営」を要請しており、引き続き大手企業の株式配当政策の維持・向上が期待できる。

寄付金、協賛金の増加が容易ではなく、いまだ低金利も続くなかで当財団は基本財産10億円について、安全性を重視しつつ運用による増収策に前向きに取り組んでおり、こうした運用環境の継続的改善は追い風となる。

文化、芸術、学術活動を支援・顕彰し、良質な舞台芸術を提供する当財団の公益事業を持続していくため、保有資産から得られる果実を最大限活用するとともに、インフレによる基本財産の目減りにも一定の策を講じ、4公益事業を着実に運営していきたい。

(25年度事業計画の柱)

- ① 大阪国際フェスティバル（OIF）は、創設63回目を迎える。前年度より一つ少ない3公演を軸に、提携公演等も実施する。

OIFはまず5月に「大阪4大オーケストラ」の演奏会でスタート。大阪で4月に始まる万国博覧会を記念し、国際色豊かに日、米、英、欧のクラシック曲を紹介する。9月には、日本センチュリー交響楽団が大阪・豊中出身の世界的バイオリニスト神尾真由子とともに、チャイコフスキーとメンデルスゾーンのヴァイオリン協奏曲2作品を演奏。11月にはウィーン・フィルハーモニー管弦楽団が、今年も世界最高峰の演奏を披露する。地元音楽関係者に活動の場を提供しつつ、引き続きOIFならではの良質な企画で大阪発の音楽・文化発信に注力する。

- ② 芸術活動助成事業は、音楽、美術両分野で合計1,500万円規模の助成を行なう。メリハ

りの利いた助成を意識する。新聞社からの寄付金に頼らず手元資金の運用益で先々の原資を確保し、引き続き安定的に事業を続ける体制を固める。

- ③ 文化財保護活動助成では、大型案件や大規模災害対応が発生した際にも、通常レベルの助成案件と両立して事業を採択できるよう、特定費用準備資金を活用した一層の基盤強化を行う。
- ④ 資産運用は進めてきた5億円の運用を24年度中に完了する。朝日新聞社から財団設立時に拠出された出捐金10億円の半分にあたる。資金運用規定に基づき、ETF（上場投資信託）を含む債券、株式等、安全かつ収益性が見込める投資先に配分。25年度は設定したポートフォリオを基準に、より良いパフォーマンスが実現できるよう買い入れ後の運用状況を定期的にチェックし、必要な手入れを行う。基本的には運用による実現益は事業運営資金にあて、含み益でインフレ分をカバーする。なお定期預金のまま残している5億円についても、現下のインフレの継続に鑑み、新たに3億円を上限に運用対象に加え、運用方法を検討していく。

（公益事業の内容）

1. 音楽会、美術展覧会等の事業に対する助成（定款第4条1）

音楽祭、美術展覧会の開催等の芸術活動に対し助成する。25年度実施事業の申請受付は24年10月25日に締め切り、応募は音楽175件（前年207件）、美術は100件（前年127件）の計275件だった。選考委員会は25年2月3日（音楽分野）と2月6日（美術分野）に開催。118件に1500万円の助成を実施する。

2. 文化財の保護等のための事業・活動に対する助成（定款第4条2）

25年度の実施事業は24年6月中（WEBは7月5日まで）に申請を受け付け、9月の文化財保護助成選考委員会で30件の申請の中から継続複数年事業を含め27件、合計5256万円の助成を決定した。また、文化財保護や修復・公開の重要性を啓蒙普及するシンポジウム等のイベントの朝日新聞社との協力開催も継続する。25年度（26年度分）から助成申請は芸術活動助成と同様、WEBに一本化し選考作業の効率化を図る。

3. 文化・学術等の向上に寄与した者に対する顕彰（定款第4条3）

芸術家、研究者等に対する顕彰を目的として朝日賞を贈呈する。近年の業績を主な対象に幅広く候補者を調査し、例年11月末から12月初めに開く朝日賞選考委員会で若干名選定する。

4. 音楽会等の公演の主催（定款第4条4）

第63回となる大阪国際フェスティバルは、春の名物公演「大阪4オケ」で5月10日に大阪・関西万博開催記念公演として開催する。9月23日には「神尾真由子×日本センチュリー交響楽団」公演を、11月7日にはウィーンフィル管弦楽団公演を行う。

以上